

ちょっと読んでみませんか(平成三十一年正月)

第 48 話 『平成三十一年 今年の言葉』 (本源寺副住職 本間健司)

いよいよ、今年は改元の年、「平成」の時代も今年四月末で終わりを迎えます。皆さんは、どのような気持ちで新年を迎えられたでしょうか？

思い返してみると、昭和から平成に改元された年は、昭和天皇が“崩御”されたことで、世の中は自粛ムード一色になり、多くのイベントが中止され、少し混乱しているような雰囲気でした。

その時に比べると、今回は平成天皇が“譲位”されるということで、日本中に祝賀ムードが広がっています。はたして、新元号はどういう言葉になるのでしょうか。皆で予想しながら、5月の改元を迎えるというのも面白いかも知れませんね。

さて、今年は譲位・改元という一大行事だけでなく、その他にも、重要な意味を持つ一年になりそうです。

それは、訪日外国人が、急激に増える可能性が高いということです。

その理由の一つとして、「東京オリンピック」を翌年に控えていることが挙げられます。各国の選手やスタッフ達が、本格的な準備のために来日し、競技施設を視察したり、実際に試し練習をしたりする選手もいることでしょう。特に、不安視されている日本の蒸し暑さを事前に肌で体験するために、夏の期間に多くの方が来日されることは、容易に想像できます。

次に、日本を訪れる「外国人観光客」の数が、今年も更に伸びる可能性が高いことです。すでに、ここ四年の間に3倍に急増し、年間3000万人の方々観光のために来日されているのですが、今年は東京オリンピックが翌年に迫っていることで、より注目度が上がり、更に増加することが見込まれています。

そして最後に、最も注目されている問題ですが、昨年(平成三十年)決議された「入国管理法改正」によって、本年から、外国人労働者の日本への移住が始まるかも知れないということです。

具体的な対策を示さないまま決議したことで、政府・与党は厳しい批判を浴びていますが：

このように、今年の、そして将来の日本社会において、私たち日本人は、日常においても、様々な国の方と対話し理解し合うことが避けられなくなることでしょう。

それは、いわば、明治維新による「開国」、そして、太平洋戦争敗戦後の「開国」に次ぐ、新時代の「開国」である、といっても過言ではないような気がするのです。それぞれの「開国」が、約75年刻みで訪れていることにも、不思議な運命を感じます。

とはいえ、それらの「開国」だけでなく、それ以前、はるか昔から、日本は隣国の文化を徐々に上手に取り入れ、日本文化と融合・発展させてきました。

仏教・食物・建築等々。そして、その根底には、日本古来の伝統精神である『和の精神』があったことは間違いありません。

『和の精神』というと、聖徳太子が制定された十七条憲法の第一条「和を以て貴しとなす」という文言が象徴的ですが、実は、聖徳太子は、『妙法蓮華經みょうほうれんげきょう（法華經）ほけきょう』の熱心な信奉者でもあったのです。

そして、『妙法蓮華經』には、『和の精神』と重なる、非常に重要な「平等思想」が説かれているのです。それは、

いちぶつじょう

「一仏乗」

という教えです。

「仏乗ぶつじょう」とは、文字通り、仏様の乗り物のこと。
つまり、「一仏乗」とは、

「世界中の人も物も全て、仏という一つの救いの乗り物で旅をする運命共同体である。別の乗り物など一つも無い。」
という「一切平等」の教えなのです。

そこにはもちろん、国籍や宗教・文化の違いなどは関係無いことでしよう。

とかく日本人は、言葉の問題もあって、外国人との付き合いに距離をおいてしまいがちです。

しかし、『和の精神』（＝『一仏乗』）という、先祖代々のDNAを受け継ぐ私たち日本人なら、きつと、これからの新時代の「開国」も、見事成し遂げることが出来る――

また、日本を訪れて下さる方々と共に、同じ「仏様の“救いの”乗り物」に乗る仲間として敬い、対話・理解し合いながら“新たな日本”を築き上げていくことが出来る――
私は、そう強く信じたいのです。

そうならば、日本の未来も、交流する国々の未来も、きっと明るいものになっていきますよね。

天皇陛下の譲位・改元が華々しく挙行され、そして、日本を舞台にした多様な「国際交流」が素晴らしく発展していくことを深く願って、平成三十一年の言葉は、『一仏乗（いちぶつじょう）』にしたいと思います。

この言葉、皆さんの心の片隅に置いておいて頂ければ幸いです。

最後になりましたが、本年も皆様方のご多幸ご健勝を心よりお祈りし…

合掌 南無妙法蓮華經 南無妙法蓮華經 南無妙法蓮華經